

社会資本整備審議会 道路分科会

第2回中部・近畿地方合同小委員会

議事概要

1. 日 時 平成24年8月3日（金）15:00～16:40
2. 場 所 ウィンクあいち 愛知県産業労働センター 1303会議室
3. 出席者

[委員]	うちだ としひろ 内田 俊宏	三菱UFJリサーチ&コンサルティング エコノミスト
	おおくぼ 大久保 あかね	富士常葉大学・大学院総合経営学部 教授
◎	おおの えいじ 大野 栄治	名城大学都市情報学部 教授
	おがわ ひかる 小川 光	名古屋大学大学院経済学研究科 教授
	すがわら あきふみ 菅原 章文	(社)中部経済連合会 常務理事
	なかむら ひでき 中村 英樹	名古屋大学大学院工学研究科 教授
	ほんぶ けんいち 本部 賢一	四日市大学環境情報学部 准教授
	かわもと よしみ 川本 義海	福井大学大学院工学研究科 准教授
○	むねた よしふみ 宗田 好文	京都府立大学大学院生命環境科学研究科 教授
	やました あつし 山下 淳	関西学院大学法学部 教授

※敬省略 ◎は委員長、○は副委員長

4. 議 事

計画段階評価（試行）について

- ・近畿自動車道紀勢線 新宮～大泊 [三重県・和歌山県]
- (1) 中部・近畿地方合同小委員会の進め方
- (2) 意見聴取結果
- (3) 対応方針（案）

<委員からの主な意見>

【意見聴取結果について】

- ・現在の国道42号に対する住民の不安が明らかにしており、命の道を早く確保して欲しいという切実な願いが明確である。
- ・意見聴取結果の属性分析等やヒアリングで聞き取った意見の盛り込みなど、せっかくの意見を今後丁寧に読み取っていく事が重要である。
- ・合同小委員会として、意見聴取方法およびその取りまとめは妥当である。

【対応方針（案）について】

- ・IC数が多いのではないか？（※問題提起）
(関連意見等)
 - ・今回の路線については、交通量が通常の高規格道路に比べて多くなく、ICの間隔を狭めても交通流に大きな影響はないと考えられるので、ICの数を増やして平常時の道路利用を促進するとともに、非常時の道路

利用を確保することが必要である。

- ・ I Cは簡易な構造とし、建設コストの削減は技術的に対応可能である。
 - ・ I Cが多いと立ち寄り交通も増え、観光等には良い事である。
 - ・ 現在の国道42号は新宮市内及び熊野川両岸部で渋滞があり、地域にとっては大きな交通課題となっており、その解決のためには熊野川両岸部に I Cを設ける事が必要と判断している。
-
- ・ 海側ルートが望ましいが、景観に配慮した計画として欲しい。
 - ・ 合同小委員会として、対応方針（案）は妥当と判断する。
 - ・ また、議論の中で委員から早期整備の意見が出ており、意見聴取結果からも地域の早期整備を望む切実な意見が読み取れる事から、委員会意見に早期整備を附帯する。

－ 以 上 －